

## 2026年1月11日（日）第二礼拝「イエス様を信じるとは」ヘブル11章1～6節

イエス様を信じる人は、大きな祝福の中を生きます。それは人生で最も大きな祝福です。第一番目、信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。私たちが一番望むのはイエス様です。信仰とは、目に見えないイエス様を永遠の実態として認め、今、私と共におられることを確信することです。それが、イエス様を所有するということです。「所有」とはヘブル語で「ヒューポスタシス」と言い、保証、確信を意味します。イエス様を所有するとは、夫婦関係と似ていて、いつもイエス様と共におり、イエス様と共に生き、イエス様の持たれるものを所有し、天国も共同で所有するということです。イエス様は私の所有であり、私もまたイエス様の所有であります。これが信じるということです。

第二番目、御言葉です。「信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り…」（本文3節）イエス様は、御言葉が人間となって来られた方です。天地万物は、御言葉であるイエス様によって造られました。神様は不可能がありません。私たちはこの全能の神様の御言葉を所有しており、それを宣言することで、いつも肯定的な信仰告白ができます。また、その御言葉はイエス様から送られた聖霊様によって与えられます。私たちが御言葉を宣言するなら、その通りになり、イエス様が地上でなされたわざ、またそれ以上のわざを行うことができるのです。「…わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」（ヨハネ14：14）百歳のアブラハムと、女性として機能しない九十歳のサラから子どもが生まれました。これは神様を信じた人、御言葉を所有した人の中に起こる主のわざです。ですから、「神様には不可能がない」という信仰を持って御言葉を宣言することが大切なのです。「神を信じなさい。…だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず…自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。」（マルコ11：22～23）

第三番目、血潮の所有です。イエス様を信じるとは、イエス様の血潮を所有することです。「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ…」（本文4節）アベルのいけにえは血のいけにえ（イエス様の十字架の死）、カインのいけにえは努力のいけにえ（宗教）です。血の中には、いのちがあります。また、罪から来る報酬は死です。血が流れ、命を落とすことで、罪の代価を払うことができます。四千年の旧約時代のいけにえは、血のいけにえでした。エジプトの奴隸生活からイスラエルの民が解放される時も、門柱とともに羊の血がつけられ、血のいけにえが捧げられました。また、私たちもイエス様の血によってすべての罪、呪い、病に打ち勝つことができました。イエス様はよみがえりであり、いのちです。また、死んでも生きます。そのイエス様を信じる報いとして、私たちはイエス様や御言葉、血潮の力、復活を所有することができるのです。これが神様の喜びです。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。」（本文6節）